

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.104/2026.5]



「Luminous Drift (光の漂い)」 木村玲子さん



揚輝荘

時代を超えたロマンがここに

大正から昭和にかけて造られた別荘である「揚輝荘」。5つの建造物が名古屋指定有形文化財に指定されており、ここでは語りつくせないほど見どころが満載です。その魅力を、揚輝荘副館長の萩野下進さんに伺いました。

名古屋初の迎賓施設

名古屋千種区の閑静な住宅街に広がる揚輝荘。主は、松坂屋の初代社長である伊藤次郎左衛門祐民。大正から昭和の初めにかけて造られた別荘である。だが、ただの別荘ではない。各界の要人や文化人を迎えるための迎賓施設であり、社交の場でもあったのだ。

名古屋には当時、要人をもてなす場がまだなかった。そこで、祐民は鹿鳴館的な役割を果たせる施設が必要と考え、この揚輝荘を造られたそう。そして、政界や官界、財界、学界などから錚々たるメンバーが、ここ揚輝荘に集うようになっていった。その中には、

洪沢栄一や広田弘毅首相、ビルマ独立の父であるウ・オッタマなどの名前もあり、国内外

旅の記憶をカタチに

見どころがたくさんある揚輝荘。気になるところ一つひとつで足を止めていると、あつという間に時間が過ぎてしまうほど見応えがある。

特に興味深いのが、揚輝荘のシンボルでもある「聴松閣」だ。英国風や中国風、インド風などさまざまな国の意匠やデザインが建物の至るところに散りばめられている。それらはすべて、祐民が旅行先で感銘を受けたものであった。



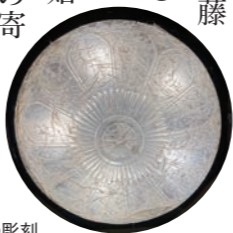
問わず祐民の交流の広さを伺い知ることができる。

名古屋をなんとか盛り立て、全国または世界から人々が集まるまにしたいという想いが強かった祐民。ここ揚輝荘で語られていたことが名古屋の発展へと繋がっており、今の名古屋があるのかもしれない。

時代とともに移り変わる姿

現在の揚輝荘は、南園と北園の二つのエリアに分かれているが、もともとは丘陵地の自然な地形を活かして造られた一つの広大な敷地であった。東西約一五〇m×南北約二五〇mの敷地内は、京都の修学院離宮に倣い上・中・下と地形の高さに合わせて三つのエリアに分かれ、池泉回遊式日本庭園などが広がり、大小さまざまな建物が点在。三〇数棟の建物があり、最初の建物となる三賞亭（茶室）を伊藤家本宅より移築してから二〇数年かけて造り上げている。

要人をもてなす場として始まり、アジアの海外留学生の寄宿舎としても利用された揚輝荘。祐民が亡き後は、第二次世界大戦の空襲で建物のいくつかが焼失し、戦火を逃れた建物はアメリカ軍の司令官の宿舎として接收。戦後は



舞踏場の照明、ガラスの彫刻。

建物の約3分の1は茶室

庭園の風景や月を愛でながら、お客さまをもてなしたそうです。



松坂屋の独身寮や常磐女学園の寮となっていた。

主が変わり、利用目的が変わっても広大な敷地は変わらなかったが、昭和四三（一九六八）年頃に大きな変化を迎える。まちの開発だ。敷地内にマンションや商業施設が建設され、開発を免れて運よく残ったのが、現在の南園と北園ということになる。

敷地は四分の一に、建物は一〇棟ほどになってしまったが、さまざまな時代を乗り越えてきた建物や庭が当時の面影を今へと伝えてくれている。



▲ひのきの一枚板をくり抜いた、いとう呉服店の「いとう」の文字。



▲木材を運ぶ際の宛名が書かれた玄関扉。お客さまに開けさせないために取手は内側のみ。（聴松閣）

名前の由来

この地がお月見の名所であったことから、漢詩の一節である「秋月揚明輝」から名付けられたそうです。



▼ヒマラヤ連峰雪嶺のガラス彫刻が施された窓。



▼アンコールトムで見られるレリーフ。

▲アグラ宮殿の細工が施された柱。美術タイルの巨匠 池田泰山による泰山タイルを採用。

特に地階は、インドのアジアンタ石窟の写しと言われるホールの壁画やアール・デコ宮殿の細工が施された



舞踏場の石張りの柱など、エキゾチックな空間に。仏教に帰依していた祐民が、お釈迦様の生誕二五〇〇年記念の年に訪れたインドの仏跡巡拝や東南アジアを旅行したときの思い出がギュッと詰まっているのだ。

揚輝荘の中で有芳軒、伴華楼に次ぐ三つ目の迎賓館となるこの聴松閣は、特に祐民のこだわりが随所に採り入れられ、祐民にとっては集大成となる建物であったのだろう。

そして、北園に広がる池泉回遊式日本庭園の四季折々の景色も見逃せない。それぞれの季節の美しさを楽しめるが、新緑の季節に、朝日に染まる白雲橋越しに見る庭園は木々がキラキラしてとても美しいのである。

在り日の揚輝荘の模型。広大な敷地内には、畑や茶畑、花壇、テニスコート、弓道場、野外舞台なども充実。



想像する楽しさ

揚輝荘には、「なぜだかわからないが…」という場所がいくつかある。

例えば表札。「揚輝荘」となっており、現在目にする「揚輝荘」とは、「き(輝)」の漢字が違う。また、地下の舞踏場の柱には、一本だけ謎の三角形のような模様が描かれていたりする。そして最大の謎は、地下トンネルだ。T字型のトンネルの入口に付けられているのは厚い鉄扉。壁はコンクリートでしっかり固められ、トンネル内は高さ二m×幅一・八mと広い。何のために造られたかは不明。防空壕、雇用対策、要人の隠れ家などの説が語られているが、あくまでも後の人々の推測となる。

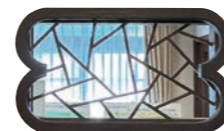
個人の所有であったため、資料があまり残されておらず、公開されていないため生まれた「謎」。もちろん答えを知るのには祐民だけだが、「なぜ？」から自分なりに



【山荘風の外観】上高地の帝国ホテルを参考。赤い壁はGHQ時代にペーージュに塗り替えられ、修復整備で赤い壁に戻された。



【中国風の寝室】天井に鳳凰のレリーフがある、お客さまのお付きの方のための寝室であった。



【食堂】違う幅の板でデザインされ、名票が施された床は、当時では珍しい床暖房が設けられていた。



【応接室】客船をイメージした丸窓とソファがある。



【舞台】インドの石窟に倣った半円形の舞台。舞台下には能舞台と同じ共鳴効果のあるピアノ線が張られている。



【舞台】絨帳

仏教に縁のあるデザイン



食堂の暖炉の装飾



地階ホール
の壁画(作者:インド人のバルクハリハラン)



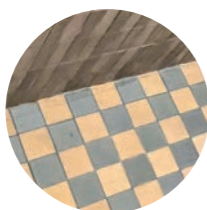
1本の柱だけにある謎の模様



新たな社交の場として

平成十九(二〇〇七)年に揚輝荘は名古屋市に寄贈され、翌年には聴松閣、揚輝荘座敷、伴華楼、三賞亭、白雲橋の五つの建造物が名古屋指定有形文化財に指定された。

現在は地域の歴史や文化を伝える貴重な場所として、



聴松閣など一部の建物と庭園を一般公開。旧食堂には喫茶コーナーもあり、庭園を眺めながらゆったりとした時間も過ごせる。コンサートやお茶会、子どもの音楽体験などのイベントも開催。名古屋公認コスパ

どんどん想像を膨らませていくのはおもしろいものだ。

地下トンネルエピソード

「テニスをしよう!」となったときのこと。いたずら好きだった主人の祐民は、有芳軒の前にあるテニスコートへの移動の際、地下トンネルを通って先回りし、お客さまを驚かせたという逸話もあります。

美術タイルの巨匠である名古屋製陶所の小森忍作。釉薬によって自然に生まれる模様の特徴。

レ施設にも登録され、レトロな雰囲気の中で写真撮影を楽しめるフォトジェニックな場所としても注目が高まっている。



地下の舞台ではコンサートなども開催。



日泰寺の五重塔が池に映るスポットがある。



【白雲橋】修学院離宮の千蔵橋を模したと言われている屋根付きの橋。



天井には祐民が描いた龍の絵があり、見る方向によって女性の横顔にも見える。▶



【伴華楼】徳川家大曾根屋敷の和室を移築し、鈴木禎次の設計で洋館と合築した建物。

五色玉石貼り

お話を伺った 副館長の萩野下進さん
歴史や文化、当時の建築物に触れ、レトロな雰囲気の中でさまざまな楽しみ方、過ごし方ができる場所です。揚輝荘を造った祐民の想いにも触れてみてください。



揚輝荘

開園時間:9:30~16:30(貸室は20:00まで)
休園日:月曜日(祝日・振替休日の場合は直後の平日)、年末年始(12/29~1/3)
入場料:北園/無料
南園(聴松閣)/一般300円(名古屋市内在住65歳以上100円)、中学生以下/無料
詳しくはこちら <https://www.yokiso.com>

「会計士は、資格を取ったら楽な仕事だよ。一〇時から一六時まで働けばいいから」子育てが始まり、手に職をつけたいと考えていた当時、先輩の会計士からかけられた言葉であり、これが会計士という仕事を初めて知った瞬間です。大学時代は英語学を学び、就職したメーカーでは英文ワープロのソフトウェアの開発とまったく違う分野の道を進んでいた私にとって、まさに未知の世界でした。しかし、先輩の言葉を信じて会計士を目指すことに。実際に働き始めてみると、全然楽ではなかったですね(笑)。

私は、自分から「やりたい」「やらせてほしい」と言うことがあまりありません。しかし、声をかけていただければ、選んでいただいた方の気持ちに応えたいと思いいかなと思います。不安やできないちろんあります。そんなときは、本当にダメなことは何か。取り返しのつかないことは何か。一つひとつ数えるようにしています。すると、実はまだ何一つ起こっていることはなくて、ただ勝手に想像して自分を追い込んでいることに気づくんです。気持ち落ち着いてベストプランは何かを考え始めると、意外と新しいアイデアが浮かんできたりするものです。気持ちが何にざわ

ついているのかを気づくことの大切さを、この仕事を始めてから実感しています。

会計士と一言でいっても業務内容はさまざまあり、私は中立の立場から監査を行う仕事をしてきました。当たり前のことができていることを保証する仕事ですが、その当たり前の中にも日々ドラマがあります。特に忘れられないのが、担当していたクライアントが倒産危機に直面したとき「僕たちは何もわからないけど、とにかく付いていくので一緒に走ってください」という社員の皆さんの言葉に、失敗はできないと思い、これまで以上に本気で取り組みました。

最終的には合併されましたが、自分が必要としてくれている人がいることをはつきり認識できたときであり、担当する会社のために何ができるのかを考えるようになりました。

仕事に対する向き合い方が大きく変わり、一生懸命取り組みむことでやりがいはい見いだせるのだと気づかせてもらいました。

仕事と子育ての両立では、クライアントや事務所の方々、家族にとってもたくさん



助けていただきました。クライアントの皆さんからいただいた言葉も力となっていったね。中でも、経営に携われるパートナーになったときにかけられた「あなたがパートナーで、こんなにうれしいことはない」という言葉は、とてもうれしくて心に強く残っています。また、社会人になった息子から「一生懸命やる仕事が楽しいという姿を見せてもらったのは、ものすごくありがたい」と言われたときは、子育てを終えた後におまけのプレゼントをもらったような喜びがありました。会計士になつたからこそ見られた景色がたくさんあり、感謝の気持ちでいっぱいなんです。会計士という仕事に出会えて、本当に良かったです。子どもたちが自分の人生をより豊かにするための力を与えるものだと、私は思います。「こんな楽しみ、こんな選択肢があるよ」と、さまざまな物事や世界を見せてあげることが大切で勉強もその一つ。数学の論理的な考え方、国語の情緒的なアプローチからの

会計士だからこそ見られた。たくさんの景色がありました。松本千佳

(日本公認会計士協会理事・公認会計士
あいちFG教育文化財団 監事)



■松本千佳 プロフィール

1961年、愛知県一宮市生まれ。名古屋大学文学部卒業後、ブラザー工業株式会社に入社。1990年に中央新光監査法人に入社、2007年にあずさ監査法人パートナーに就任後、有限責任あずさ監査法人の理事、経営監視委員会委員、名古屋事務所長に就任。現在、ブラザー工業株式会社と日野自動車の社外監査役、ノリタケ株式会社の社外取締役を務める。趣味の歌舞伎鑑賞とともに、最近はアクセサリ作りやお盆に絵を描く体験教室に参加し楽しみを増やしている。

理解など教科それぞれの考え方があり、それを知ること初めて自分にフィットする考え方を知ることができ、自分の求めるものを選べるのだと。そのためにも、子どもたちが多くの事柄に触られる機会をつくるのが、私たち大人の役目だと思います。

私はものすごく志が高いわけでもなく、自分のできることを誠意をもって向き合ってきました。つらいことやできないことも数えきれないほどありました。そんなときに思いつくのが、「笑う人生は楽しい」という言葉です。ニコニコしていれば楽しいことが寄って来るといふこともありますが、つらいときに笑うと脳が「楽しいんだ」と騙されて楽しい気持ちになるらしいですよ。なので、もし一〇〇個のうち三個しか思い通りにならなかったとしたら、三個できたことを楽しむようにしています。楽しいことを見つける、楽しむということが、意外と人生を豊かにする方法かもしれないです。

ずっと子育てに、仕事にと走り続けてきましたが、現在は人生のステージが変わるタイミングに差しかかっています。これからどのように生きていきたいのか、ゆっくり考えながら人生を楽しんでいきたいと思っています。—談—

なわとびブームを、ここ名古屋から巻き起こそうとしている人がいる。日本やアジアの選手権で個人総合優勝の経験がある粕尾将一さんだ。現在は、自身が発足した蟹江町スポーツ少年団「KANIE」なわとびクラブをはじめ小学校への出張指導など、愛知県を拠点に指導者として活躍している。

「なわとびを通して、体を動かす楽しさを伝えていきたいですね」

粕尾さんは、子どもたちが初めてなわとびを練習するとき、いかに楽しく続けられるかを大切にしている。そこで考えたのが、回数の数え方。引っかかってまた跳び始めるとき、リセットして一から数え直すのではなく、続きから数えていくやり方だ。例えば、四五分の練習時間で何回跳べたかを数える。そうすると、子どもたちのモチベーションは上がり、一度に跳び続けられる回数も伸びていく。また大なわとびでは、回す側と跳ぶ側が互いに思いやりをもってタイミングを合わせることで上手くいくことを伝えている。なわとびは仲間と力を合わせる楽しさを知ることができるとスポーツでもあると教えてくれた。



「実は、愛知県はなわとびが上手な子が多いんですよ。幼稚園で体力づくりを目的になわとびを遊びに採り入れているところが何か所もあり、ほかの地域よりも盛んだと思います」

跳ぶ楽しさに、子どもはもちろん大人もはまる人が続出！粕尾さんが開催している、蟹江なわとび大会や全国オンラインなわとび大会などは、県外からも多くの人々が参加しているそうだ。

競技の世界では、愛知県の選手の多くが、全国大会で上位を占めているという。そして、全国大会の表彰台が世界大会の表彰台と言われるほど日本は強い。回数を競うもの、演技を競うものなど、さまざまな種目があるが、アクロバティックな技が入るフリースタイルは、ただ「すごい！」の一言に尽きる。

そのすごさを、今年の一〇月に愛知県蟹江町で行われるオールジャパンの地区予選大会で、ぜひ観てもらいたいという粕尾さん。

「二つのことに没頭し、チャレンジする姿はカッコいいです」

今、名古屋から全国へ、なわとび熱が広がっていく！



●10月31日 / 全日本ジャンプロープ選手権大会 個人戦 中部地区大会 (愛知県蟹江町で開催)

なわとびブームを起こしたい！子どもも大人も、はまる人続出です。

なわとび競技 (ジャンプロープ) の普及と指導
粕尾将一さん
第36回助成 (個人)

全日本ロープスキッピング選手権大会 (2004年、2006・7年) とアジアロープスキッピング選手権大会 (2004年、2009年) で個人総合優勝、世界ロープスキッピング選手権大会 (2006年・7年) の個人で5位。2010年から2015年までシルク・ドゥ・レイユ [La Nouba] (フロリダ州) に出演。教え子から世界チャンピオン、アジアチャンピオンを輩出。誰もが参加できる「全国オンラインなわとび大会」などさまざまなイベントも開催している。



オペラとは、歌で表現されたドラマだ。物語は昼ドラのようなものや純愛もの、神話をモチーフにしたものなどさまざまなジャンルがある。登場するキャラクターは一人ひとりがとても魅力的で、気づけば物語の世界へと惹き込まれている。

「オペラを知ってもらって、そのおもしろさを味わってもらいたいですね」

難しい、敷居が高いというオペラのイメージを覆すために、ふらつと立ち寄れる感覚で楽しめる野外オペラにチャレンジしているのが、「Teatro S'otopera (劇団そとぺら)」だ。愛知県立芸術大学の卒業生が中心となり結成。二〇二四年より毎年ゴールデンウィークに、名古屋市の鶴舞公園普選記念壇で野外クラシック音楽フェスティバル「野外 de オペラ」を無料で開催している。



してくれた。

「初めてオペラを観る人たちに、どのようにわかりやすく楽しんでもうらかを大切にしていきます」

そのために、小島万里奈さんと谷中弦さんをはじめメンバーたちは、通常のオペラ公演とは異なるさまざまな工夫を凝らして

る。例えば、登場人物の関係性をわかりやすくするために自己紹介から始め、歌う場面ではイタリア語で歌う前に日本語で「こういう気持ちで歌います」と内容を簡単に説明するなど。お客さまの観るスタイルも自由だ。飲み物や食べ物を片手に観たり、客席の後ろに広がる芝生で遊びながら観る子どもたちがいたり、散歩の途中に立ち寄る人もいる。野外だからだろうか。意外なところで笑いや拍手が起きたりというお客さまのストリートな反応も多く、まさに思い描く景色が広がっている。

「衣装や小道具もできるだけ本格的なものを身に付け、作品が作られた時代の雰囲気も感じてもらえるようにしています」

と、小島さん。ガーデン椅子を用いた舞台セットの展開も併せて楽しんでもらえたらと話

お客さまから寄せられる「初めて見たけどわかりやすかった」「このキャラが好きになりました」などの声が、パワーの源となっているというメンバーたち。「オペラをやりたい！」という熱い気持ちとともに、これからもチャレンジは続いていく。



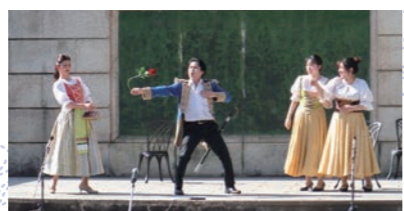
オペラって、とってもおもしろい！初めての人に観てもらいたいです。

野外 de オペラ (オペラの企画・上演活動)
Teatro S'otopera (劇団そとぺら)
第36回助成 (団体)

2023年に、愛知県立芸術大学の卒業生を中心に結成。現在は、東京二期会や名古屋二期会の会員・研修生などプロとして活動している約15名のメンバーで構成。「野外 de オペラ」は回を重ねるごとに観客数は増え、第2回では2日間で約600人を集客。そのほか不定期で重唱コンサートなども開催している。



ホームページ インスタグラム



小島 万里奈さん

谷中弦さん



2026年 1月

- **STRINGS (演劇)** 第32回助成・団体
STRINGS ☆第11回公演「明日葉の庭」[昭和文芸小劇場(名古屋市昭和区)]
- **シルバーボランティア 劇団かがやき** 第35回助成・団体
シルバーボランティア劇団かがやき30周年～深川木戸番ものがたり～通りゃんせ(約束)[西文化小劇場(名古屋市西区)]
- **語人 サヤ佳さん(語り活動)** 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生きづらさ・行きづらさ[とよた市民活動センター・ホール(豊田市)]
- **斉と公平太さん(美術制作)** 第31回助成・個人
「四つの対話」[名古屋市美術館(名古屋市中区)]
- **中谷ゆうこさん(美術制作)** 第25回助成・個人
中谷ゆうこ展[ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)]
- **日展 名古屋展2026 展(愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区))**
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人[永訣の惑い]
森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人[響象]
堀 龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人[波止]

2026年 2月

- **中部産業遺産研究会** 第30回助成・団体
第20回パネル展と講演会「大正ロマン・昭和レトロのモノがたり皿」～消え去った風景、忘れられた施設～[名古屋都市センター(名古屋市中区)]
- **語人 サヤ佳さん(語り活動)** 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生きづらさ・行きづらさ[とよた市民活動センター・ホール(豊田市)]
- **名古屋郷土文化会** 第7回助成・団体
「名古屋の如来教とその近代化」(講師:石原和氏)
「近代伊勢御師の尾州をめぐる動向と真宗勢力」(講師:千枝大志氏)
[名古屋市鶴舞中央図書館1F 第1集会室(名古屋市中区)]
- **イミック新子さん(国際文化交流、絵画作品の発表)** 第32回助成・個人
グループ展 PARADE2026-春-[ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)]
- **劇団シンデレラ** 第9回・第36回助成・団体
SDGsミュージカル「アリスのすきなレストラン」[多世代交流センターさくらの家(岩倉市)]

2026年 3月

- **加藤恵利子さん(コンサートの企画・出演)** 第36回助成・個人
人も「みんな一緒に楽しむ」を目指したコンサート「みみコン5」
[宗次ホール(名古屋市中区)]
- **語人 サヤ佳さん(語り活動)** 第26回助成・個人
月に一回、二日間の“のんびり広場”～「寄っとい DAY」生きづらさ・行きづらさ[とよた市民活動センター・ホール(豊田市)]
- **もりっこ彩合唱団** 第34回助成・団体
7thコンサート～愛をありがとう～[守山文化小劇場(名古屋市中区)]
- **劇団シンデレラ** 第9回・第36回助成・団体
こうなん Happy!ファミリーフェスタ出演 ミュージカル「ドジラと森のなかまたち」[Home & nico ホール(江南市)]
- **新城吹奏楽団** 第6回助成・団体
スプリングコンサート[市民センターほうらい(新城市)]

仲間達の近況メモ

- **小粥幸臣さん(美術家)** 第34回助成・個人
“障子のあな ～二つ目～”[JINGU339(名古屋市熱田区)]
- **一般社団法人 音楽のちから** 第36回助成・団体
斎藤守也(ピアニスト)コンサート[あいこ小児保健医療総合センター(大府市)]

2026年 4月

- **フォーラム21 少年少女合唱団** 第24回助成・団体
創立35周年記念 第33回定期演奏会(サマランカホール(岐阜市))
- **田中里奈さん(絵画制作)** 第28回助成・個人
田中里奈展 -Spring has come!-[GALLERY IDF(名古屋市中東区)]

2026年 5月

- **新城吹奏楽団** 第6回助成・団体
第102回定期演奏会[新城文化会館大ホール(新城市)]
- **Teatro S'otopera(劇団そとべら)** (野外オペラの企画・開催) 第36回助成・団体
第3回野外クラシック音楽フェスティバル そとべらと一緒に楽しむ!
「野外 de オペラ」[鶴舞公園普選記念壇(名古屋市中区)]
- **平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画)** 第6回助成・個人
おしゃべりピアニストひらめの心の唄 ～おめでとう・ありがとうを歌にのせて～ [白鳥庭園常夜燈広場(名古屋市熱田区)]

書籍・会報誌等の発行

- **江南郷土史研究会** 第3回助成・団体
1～5月…「江南郷土史研究会会報」563～567号発行
- **小牧市文芸協会** 第2回助成・団体
1～4月…郷土文芸誌「駒来」第648～651号発行
- **野田史料館** 第1回助成・団体
1月…「野田史料館報」第174号発行
- **岡崎地方史研究会** 第34回助成・団体
2月…「岡崎地方史研究会便り」No.65発行
- **まつり同好会** 第25回助成・団体
3月…「まつり通信」640号発行、まつり87号 特集「風流再考・東海の風流」発行
5月…「まつり通信」641号発行
- **名古屋郷土文化会** 第7回助成・団体
3月…「郷土文化」第80巻第2号発行
- **長久手市郷土史研究会** 第13回助成・団体
3月…「胡林石」第67号発行
- **名古屋民族研究会** 第8回助成・団体
3月…「名古屋民族」63号発行
- **岡崎地方史研究会** 第34回助成・団体
3月…岡崎地方史研究会 研究紀要 第54号発行
- **「尾北郷土誌」の会** 第36回助成・団体
4月…尾北郷土誌 第3号発行
- **三ツ松悟さん** 第27回助成・個人
4月…刈谷ふるさとガイドボランティアの会 設立二十周年記念出版「ればーと随想 第十二巻 刈谷の史跡・歩き見記」出版

これからの公演

- **プランタン管弦楽団** 第33回助成・団体
6/7…第24回定期演奏会(愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市中東区))
- **加藤恵利子さん(コンサートの企画・出演)** 第36回助成・個人
7/4…「みみコン6 for KIDS!!」[熱田文化小劇場(名古屋市熱田区)]
- **粕尾将一さん(なわとび競技(ジャンプロープ)普及指導)** 第36回助成・個人
10/31…全日本ジャンプロープ選手権大会 個人戦 中部地区大会(蟹江町体育館(海部郡))
1月頃…蟹江なわとび大会開催予定

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

観客に「良かったね、楽しかったね」と思ってもらうのはもちろん、自分たちもそう思える芝居づくりを目指している大同大学大同高校の演劇部。話を伺った日は、三月下旬に行われる名古屋地区の高校演劇部の合同発表会に向けて、熱い稽古が繰り返されている真ただ中だった。今回上演するのは、家族を舞台にすれ違いのおもしろさを描くコメディ。

「どう表現したら笑いが起こせるのか難しいです」「演じることが一筋縄ではないかないです」
これまでシリアスな作品が多かった部長の木田美々嘉さんと副部長の賀川弘稀さんにとって、初めてのコメディ作品であり、試行錯誤しながら笑い“に取り組んでいた。悩んでいる仲間がいたらアドバイスをしたり、練習に付き合ったり。先輩たちが自分たちにくれたように周りをよく見て、今度は自分たちが力になる番だという二人に、頼もしさを感じた。



演劇部のモットーは、芝居づくりの楽しさを通じて自主性と協調性を養うこと。ランニングや発声練習などの基礎練習は役者も大道具制作や音響のスタッフも、部員全員が一緒に

初め観た演劇部の芝居に感動した校長の戸倉隆先生は、自分の言葉で考えていることをしっかりと伝える部員たちに驚きながらも、その成長に喜びを感じていた。
通称春フェスと呼ばれる三月頃に行われる春季全国大会の出場を目指し、新たなスタートを切った部員たち。次はどんな芝居を見せてくれるのか楽しみだ。

初めて観た演劇部の芝居に感動した校長の戸倉隆先生は、自分の言葉で考えていることをしっかりと伝える部員たちに驚きながらも、その成長に喜びを感じていた。
通称春フェスと呼ばれる三月頃に行われる春季全国大会の出場を目指し、新たなスタートを切った部員たち。次はどんな芝居を見せてくれるのか楽しみだ。



自分たちも観客も、心が動くような芝居をつくりたいです。

演劇部 大同大学大同高等学校

第36回援助(高校生)

顧問の赤坂学先生の指導のもと、14名の部員が活動中(3月現在)。第75回中部日本高等学校演劇大会で文部科学大臣賞、第70回全国高等学校演劇大会(鹿児島大会)・第47回全国高等学校総合文化祭演劇部門で優良賞、第77回愛知県大会で奨励賞を受賞。良い芝居をすることを第一に、部員全員が一致団結し、日々練習に励んでいる。

顧問 赤坂学先生 賀川 弘稀さん 木田 美々嘉さん 校長 戸倉隆先生



表紙・作品

「Luminous Drift 光の漂」
縦110x横90x高さ310mm
ガラス胎有線七宝
素材等 ガラス、銀線、釉薬、雲母、真鍮、LED Lamp、乾電池、電線
木村玲子さん(第36回助成)

● **作者の言葉**
この作品は自宅の珊瑚の水槽を見て、海流の中で揺れる珊瑚と灯りのやわらかな漂いが表現できたらと思い制作しました。また、乾電池を電源に初めて使用しLEDの光がやわらかくなるよう工夫を凝らしました。

第37回(2026年度)

助成対象者募集

募集期間 5月15日(金)～6月30日(火)

募集要項

一般助成

●対象

愛知県内を基盤に、教育及び文化活動の維持発展に努力し、地道に、継続的、独創的な活動を行っている個人又は団体で、次の条件を満たすものとします。

①行政機関(国又は地方公共団体)から助成を受けていないこと。

※助成が反復・継続ではない場合、助成金額が少額の場合はこの限りではありません。

②営利を目的としないこと。

(注)「教育活動」とは社会教育活動(スポーツを含む)を主体とします。「文化活動」とは音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術、工芸、文芸、郷土史研究等の分野とします。

●応募または推薦

原則として、個人又は団体からの直接申請としますが、第三者からの推薦申請も認めます。

●助成金の額及び件数

個人に対し、助成金は1件につき30万円を8名以内。団体は1件につき40万円を10団体以内。

●助成金給付の決定及び通知

給付の決定は選考委員会の選考審査を経て、理事長が決定します。結果は書面にて申請者に通知します。

●助成金給付の時期

助成金は決定通知後、1ヶ月以内に給付します。

●申請方法

◇申請用紙はホームページよりダウンロードしてください。

◇所定の申請書に記入のうえ、5月15日(金)から6月30日(火)までに当財団へ郵送してください。(当日の消印まで有効とします。)

高校生への援助

●対象

愛知県内の高等学校における文化及び体育活動。

●援助金の額および件数

援助金は文化活動が30万円単位、体育活動が50万円単位で、各150万円以内。

※応募の際の申請書並びに添付資料はご返却いたしませんのでご了承願います。

※応募された方の個人情報につきましては、当財団事業にて使用させていただき、当財団の個人情報保護方針に基づき適正に管理します。

●申請方法

「文化活動」においては愛知県高等学校文化連盟、「体育活動」においては愛知県高等学校体育連盟の会長推薦が必要です。

※その他、募集期間等については一般助成と同様です。

お問い合わせ先

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号(あいち銀行本店内)

公益財団法人 あいちFG教育文化財団 事務局

☎(052)262-9601 ダイヤルイン

<https://www.aichi-fg.co.jp/sustainability/social/society/foundation/>



あゆち第104号●2026年5月

発行:公益財団法人 あいちFG教育文化財団

〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号 あいち銀行本店内

☎(052) 262-9601

<https://www.aichi-fg.co.jp/sustainability/social/society/foundation/>

